

社会資本総合整備計画 事後評価書

計画の名称	12 都市空間における防災性の向上と円滑な交通を支援する街路整備		
計画の期間	平成21年度～平成25年度（5年間）	交付団体	秋田県、秋田市、仙北市
計画の目標			

秋田県全域を対象に、歩道未設置の通学路において歩道整備や電線地中化等による歩行者の安全確保、緊急輸送道路に位置づけられた路線において橋梁耐震補強や耐荷力向上等の質的改良による防災対策などを行い、都市の防災性能の向上と、歩行者・自転車や車両等が円滑に通行することが出来る都市空間を整備する。

計画の成果目標（定量的指標）	①災害時の支援道路となる緊急輸送道路の橋梁耐震化率を向上（H21：0% → H25：25%） ②安全に通行できる歩行空間確保率を向上（H21：0% → H25：12%）		
----------------	---	--	--

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値 当初現況値（H21当初） 中間目標値（H23末） 最終目標値（H25末）			備考						
①街路事業により整備する緊急輸送道路にある橋梁について、耐震化が必要な橋梁の整備率を算出。（橋長15m以上対象） （橋梁耐震化率）= [（整備済み橋梁数）／（緊急輸送道路上の橋梁数）] × 100（%）※下部工・上部工をそれぞれ1とする。	0%	0%	25%							
②歩道未設置の通学路において、歩行空間が確保された延長の割合。無歩道区間の解消・無電柱化による有効幅員（2m以上）確保延長より算出。 （歩行空間確保率）= [（歩行空間確保延長）／（整備計画区間全延長）] × 100（%）	0%	4.7%	12.3%							
全体事業費	合計 (A+B+C)	1,999 百万円	A	1,999 百万円	B	0 百万円	C	0 百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	0.0%

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期 平成27年度
各事業主体へヒアリングし、秋田県建設部都市計画課で取りまとめを実施	公表の方法 秋田県ホームページで公表

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業

A 地方道路整備事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	道路種別	省略工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
											H21	H22	H23	H24	H25		
12-A1	街路	一般	秋田県	直接	秋田県	S街路	改築	千秋広面線（手形）	現道拡幅 L=0.5km	秋田市						405	
12-A2	街路	一般	秋田市	直接	秋田市	S街路	改築	秋田環状線（牛島駅前）	街路整備 L=0.7km	秋田市						359	
12-A3	街路	一般	秋田市	直接	秋田市	S街路	改築	千秋久保田町線	現道拡幅 L=0.1km	秋田市						791	
12-A4	街路	一般	仙北市	直接	仙北市	S街路	改築	岩瀬北野線	街路整備 L=0.5km	仙北市						210	
12-A5	街路	一般	秋田県	直接	秋田県	S街路	改築	久保田古館線	現道拡幅 L=0.2km	鹿角市						234	
合計																1,999	

B 関連社会資本整備事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考	
										H21	H22	H23	H24	H25			
合計																0	

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考

C 効果促進事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考	
										H21	H22	H23	H24	H25			
合計																0	

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況					
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		<ul style="list-style-type: none"> ・ 千秋広面線（手形）における手形陸橋下部工の耐震補強を実施したことで、緊急輸送道路の安全性が向上した。 ・ 千秋広面線（手形）の現道拡幅により、歩道が整備され、通学路の歩行空間が確保された。 			
II 定量的指標の達成状況	指標①（橋梁耐震化率）	最終目標値	25 %	目標値と実績値に差が出た要因	目標値と同値
		最終実績値	25 %		
	指標②（歩道空間確保率）	最終目標値	12.3 %	目標値と実績値に差が出た要因	補正予算等により、事業進捗が図れたため。
		最終実績値	13.1 %		
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)					

3. 特記事項（今後の方針等）				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き、千秋広面線（手形）における手形陸橋上部工の耐震対策、及び橋梁長寿命化修繕計画に基づく老朽化対策を実施し、一層の安全性向上を図る。 ・ 引き続き、継続箇所の整備を推進し、通学路における安全で快適な歩行空間の確保を図る。 				